

教育は最高の投資です

高校卒業後のお子様の進路に悩まれる方も多いと思います。就職するのか、それとも大学、短大、専門学校などに進学するのか、様々な進路先があります。それぞれの進路別に教育費はどれくらいかかるのか、教育費を用意することはできるのか、不安な方も多いでしょう。

一方、大学や専門学校に進むことで子どもにとってどれくらいメリットがあるのかもよくわかりません。就職と進学ではどのような違いがあるのかを比較してみましょう。

図1は、高校卒業後の進路別の教育費の総額と、学歴別の平均月収や生涯賃金（60歳まで）を比較したものです。

図1 高校卒業後進路別教育費

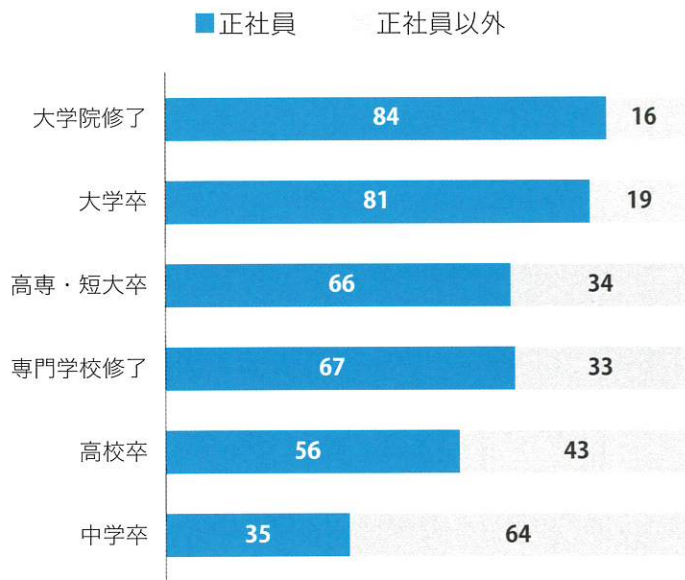


※1 在学費用（授業用・通学費・その他の学校教育費等）

日本政策金融公庫：令和元年教育費負担の実態調査結果 厚生労働省：令和元年賃金構造基本統計調査
ユースフル労働統計 2019 労働統計加工指標集 より NPO 法人キッズドアが作成

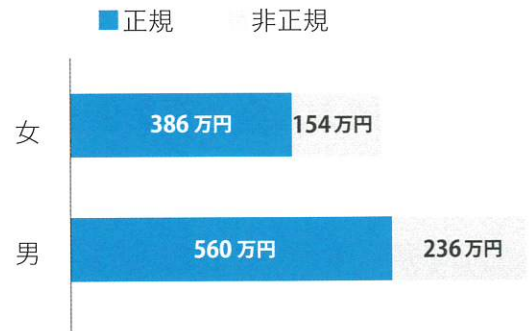
やはり大学に進学すれば教育費はたくさんかかりますが、平均月収や生涯賃金などにもしっかりと反映されます。さらに、この図には大きな落とし穴があります。賃金の計算には、「正社員」の給与しか入っていません。正社員と非正社員では賃金や待遇に大きな差があります。学歴別に正規・非正規の割合を示したのが図2です。また正規と非正規の賃金格差を表したのが図3です。

図2 若年労働者に占める正社員と正社員以外の割合



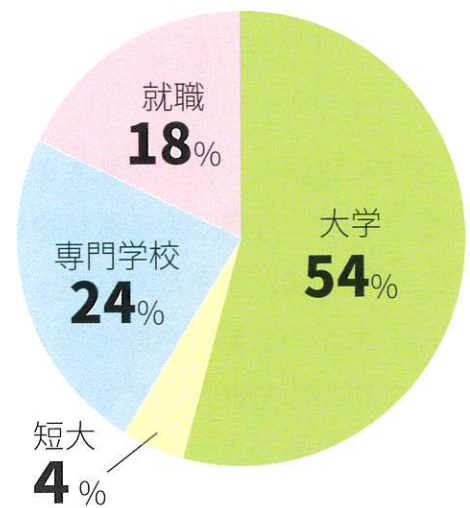
※若年労働者（在学中を除く15～34歳）
厚生労働省：平成25年若年者雇用実態調査

図3 正規・非正規 平均給与（平成30年）



国税庁 平成30年分民間給与実態統計調査

図4 高校卒業後の進路



文部科学省 令和元年度学校基本調査

高卒で働き始めると、正社員になる比率は56%、正社員以外が43%ですが、大卒では正社員81%、正社員以外19%と、正社員になる率がグッとあがります。図3を見ると、正規雇用と非正規雇用では平均給与で2倍以上の差が出ます。お金がすべてではありませんが、安定して高い給与を得るためには、大学進学をした方が有利ということは、間違いないでしょう。

文部科学省の調査によれば、高校卒業後に就職するのは18%。8割以上は高校卒業後も学び続けます。大学や専門学校に行くことは、決して贅沢ではありません。少子高齢化が進む日本では、一人一人の子どもが十分な教育を受け、たくさん稼いで税金を納めてもらった方が社会にとっても良いのです。

教育は最高の投資と言われています。必ずしも皆が大学や専門学校に進まなければならないわけではありませんが、もし、お子様が進学を望むのなら、その夢を応援してあげるの大切です。医師や薬剤師、教師など大学や短大に進まなければならない職業もあります。人脈や人生の選択肢も広がります。

家庭の経済状況も含めて、ぜひお子様と高校卒業後の進路について早いうちから相談してみてください。

●ポイント

「お金のことは心配しなくていいから」と伝えても、親が無理をしているのは、子どもに必ず伝わります。安心して進学させたいなら、家庭状況を隠さずに、大学や専門学校への進学の意義も含めて親子で話し合ってみましょう。